

事業案内

寄り添う医療 笑顔のサポート
宇光会 村井クリニック

45th



Anniversary

MURAI CLINIC

Clinic Guide
2023

Contents

- 02 人とともに、地域とともに
- 03 トップメッセージ
- 04 クレド
- 05 健康とサステナビリティ
- 06 社会への取り組み
- 07 環境への取り組み
- 08 人材への取り組み
- 09 DXへの取り組み・感染症対策
- 10 地域連携に向けた取り組み
- 11 かかりつけ医機能
- 12 ペインクリニック
- 13 在宅医療
- 14 リハビリテーション
- 15 認定栄養ケア・ステーションうつのみや
- 16 地域貢献活動
- 17 クリニックのあゆみ
- 18 医療法人概要

人とともに、地域とともに

ヘルスプロモーション

すべての人は生まれてから亡くなるまでのライフコースを辿ります。そのなかで、疾病や障がいには病原体・有害物質などの外部環境要因や遺伝子など遺伝的要因ばかりでなく、食生活・運動・喫煙・精神活動などの生活習慣要因の蓄積が大きな影響を与えます。

私たちは、将来起こりうる疾病に関連するリスク因子を予測し、それぞれのライフステージに合わせた疾病予防・健康格差の縮小・ヘルスプロモーションをお手伝いしています。



人生の物語

医学は科学でありEBM(エビデンス・ベースド・メディスン＝科学的根拠に基づく医療)を重視しますが、一方で医療にはNBM(ナラティブ・ベースド・メディスン＝患者自身の物語と対話に基づく医療)も大切です。

人生は一人ひとりの物語です。私たちは患者中心の医療、人生の納得と満足を実現する医療を目指し、科学的根拠とともに人生の物語を大切にしています。



住むだけで健康になるまちづくり

自動車依存度と糖尿病の関連が知られています。公園が近くにあるだけで生活習慣病リスクが低減することもわかっています。

私たちは医療サービスを提供するだけでなく、地域の医療・介護・福祉施設、保健師、行政と連携し、地域に人のつながりや居場所があり、自然と出かけたくなるまちづくり、公共交通が整備され、結果的に歩いてしまうまちづくりを通じて、地域のヘルスプロモーションを実践します。

Well-beingと幸福度

医療の目的は「健康」です。広い意味で健康は肉体的な要素ばかりでなく、精神的にも社会的にも満たされた状態を示しています。コミュニティにおけるつながり、個人の自己実現などの要素が含まれる広い意味での健康はwell-beingと呼ばれています。

国連の「世界幸福度ランキング2022」で日本は世界58位と低く、上位はフィンランド、デンマーク、アイスランドだそうです。日本で幸せの主観的評価が低い理由に「他者への寛容度」が低いことが挙げられています。

英国のあるシンクタンクは、地球幸福度指数(Happy Planet Index: HPI)を提唱しています。「well-being」、「平均寿命」、「国内格差」の三つを足し「エコロジカル・フットプリント」(環境負荷)で割ることで、人間が本来あるべき姿で、自然と共存しながら生活している姿が数値化されるというものです。

このHPIが上位の国はコスタリカ、バヌアツ、コロンビアだそうです。いずれの国も所得や福祉は低水準ですが、共通して資源効率と生活満足度が高いようです。

幸福度を上げる5つのポイント

- つながる(Connect): 人とつながる、コミュニティの一員となる、自然とつながる
- アクティブになる(Be active): 散歩など、毎日少しでも体を動かしてみる
- 好奇心を持つ(Take notice): 季節の移り変わりに気づく、五感を使う、その瞬間を味わう
- 学び続ける(Keep learning): やったことのないことに挑戦する、新しい考えに触れる
- 与える(Give): 何処しらの「いいこと」を試してみる、身近な人を喜ばせてみる

TOP MESSAGE

地域のかかりつけ医として 健康と幸せを最大化する先進医療機関へ

地域におけるクリニックの役割

地域におけるクリニックの役割は、単に怪我や病気を治療するばかりでなく、ライフステージに合わせた過不足のない医療・ケアを提供すること、ときに患者さまの立場を代弁する役割を担うことだと考えています。そのために私たちは、医学的適応のほか、患者さまの意向、尊厳とQOL、心理・社会面の課題、支援者の状況、提供される社会資源の事情などを総合的に理解するように心がけています。



院長 村井邦彦

中国六朝時代の陳延之の著書『小品方』に「上医医国、中医医民、下医医病」という言葉があります。これは、「上医は国を医し、中医は民を医し、下医は病を医す」と読み、優れた医師は国の戦乱や弊風を救うということです。私たちのような臨床医は日々患者さまを目の前に病気やけがを相手に働いているので活動のベースは下医かもしれませんが、皆様の生活を支え、地域を支える医療を意識し続けることが広くは国を救うことにつながってくればよいと願っています。

近年は、厚生労働省が「医療機能の分化・連携」という医療政策を進めています。それによると、今後、慢性疾患を抱える高齢者が増える中では、効率的な医療資源の活用のみならず、患者さまのメリットという観点からもかかりつけ医などによる継続的・一元的・診療科横断的な受診が望ましいとしています。かかりつけ医の定義は、「なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要なときには専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師」とされています。

私たちは、地域のかかりつけ医として、全人的医療、ライフコース・アプローチ、家族や社会を包含する地域医療を通じて、地域のみなさまの健康と幸せを最大化できる医療機関を目指して、さらなる成長を目指します。

Credo 2022 宇光会の信条と行動規範

職業奉仕

医の倫理を遵守し、職業を通じて、患者さまの最善の利益のため、人と地域のために奉仕します。

全人的医療の実践

身体・心理・社会的側面を幅広く理解し、個々人に合った総合的な医療とケアを実践します。

ヘルスプロモーション

患者・家族・社会全体を視野に、疾病予防、リスク因子のマネジメント、健康格差の縮小、健康長寿のまちづくりを推進します。

人間性を磨く

人に優しく接し、生き方に共感し学ぶことで、自らの人間性を磨き、自らの人生も豊かにします。

医療の質の保証

良質な医療を保証するために、知識・技術の維持向上に努めます。

進取果敢

正確な情報分析に基づいて決断し、挑戦することにより、時代に合わせた医療を提供し続けます。

3 すべての人に
健康と福祉を



健康とサステナビリティ

真に健康で幸せな生き方を目指して



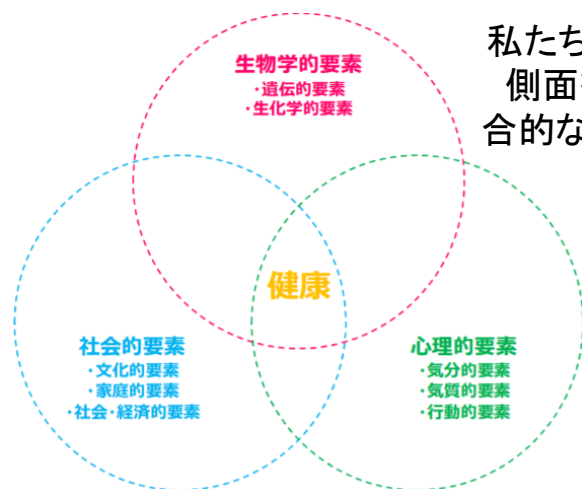
WHO憲章 健康の定義(1947年)

「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」“Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.”

生物心理社会モデル (Bio-Psycho-Social model)

BPSモデルは人間の疾病を、生物、心理、社会環境要因の相互関連性として捉えています。1977年に精神科医のジョージ・エンゲル氏がbiomedical model(生物医学モデル)に対比する疾患モデルとして提唱しました。

私たちは、人の身体・心理・社会的側面を理解し、個々人に合った総合的な医療とケアを提供することを心がけています。



健康と福祉のまちづくり

誰ひとり取り残さない健康と福祉のまちづくりを目指して、医療、感染症対策、予防接種、心の健康対策、薬物依存対策、交通安全、保健サービス、教育を推進します。

SDGs(2015年)

環境・社会・経済が持続可能な状態を目指して、サステナブル経営を推進します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





社会への取り組み

健康格差の縮小、健康長寿社会の実現



健康格差への取り組み

WHOは健康格差を縮小する社会環境の整備を提言し、医療従事者・関係団体にSDHを意識した診療・支援を行うことを提言しています。

私たちは、日常診療および社会貢献活動を通じて、あらゆる人と組織に対して継続的な働きかけを続けます。

■ 健康格差を縮小するための3つの段階

社会的処方への取り組み

私たちは、患者さまのSDHに気づき、適切な社会資源につなげることにより、健康と幸せにつながる解決策を見出すお手伝いをします。

「社会的処方委員会」では、地域のフォーマル・インフォーマルな社会資源とつながり、社会的処方を実践しています。

健康長寿への取り組み



健康長寿とちぎ

健康長寿とちぎ 応援企業

私たちは健康長寿とちぎ応援企業です。
イベントや啓発活動などを通じて、県民の皆さまの健康づくりを応援しています。

地域貢献活動

私たちは、通常の診療行為のほかに、「地域貢献活動」を法人の役割として位置付けています。

- 子ども塾・わいわい食堂(子ども食堂)
- 地域包括ケア研究会
- 地域支え合い研究会
- 健康祭り
- 寺子屋わーく(勉強会)
- 各種地域活動の支援
- みんなの保健室 戸祭

SDH(健康の社会的決定要因)

「健康」は、遺伝子や生活習慣などの生物学的要因だけで決まるわけではありません。所得、家族状況、友人・知人とのつながりなどの「個人の社会・経済要因」と、国の政策や職場・コミュニティでの人のつながりの豊かさ(ソーシャル・キャピタル)など「環境としての社会要因」を総称してSDHと呼びます。





環境への取り組み

CO2排出、環境負荷低減に向けて



医療分野では使い捨て製品が大量に焼却されています。照明や空調、医療機器にも大きな電力を消費します。英国では、公的セクターのCO2排出量の25%を医療が排出していたという報告があります。この傾向は日本でも同様です。

医療材料や医薬品による環境負荷も見逃せません。特にPVCを含む製品は、環境かく乱物質や発がん物質を含んでいます。すべての医療材料を直ちにPVCフリーにすることは困難ですが、できるだけ使用しない意識は大切です。

脱炭素の取り組み

医療機関のCO2排出量が大きいことを理解し、医療廃棄物削減、リユース、リサイクル、省エネルギーに努めます。

訪問診療や送迎サービスで使用する車両にエコカーを積極的に採用します。太陽光発電、再生可能エネルギーの活用に積極的に取り組みます。

環境負荷低減の取り組み

環境保全を主眼とし、医薬品の環境リスクを理解した上で、未使用医薬品を安易に廃棄せず、地域の薬局で回収する仕組みに協力しています。

PVCをはじめとする化学物質と、医薬品による環境負荷を最小限に抑えるように努力を続けてゆきます。笑気ガス、EOGガスは使用していません。

医療廃棄物の適正処理

医療廃棄物の回収業者の選定に際しては、「産業廃棄物処理業者の優良性評価制度」を活用しています。

廃棄物処理法に基づき「特別管理産業廃棄物管理責任者」を配置するとともに、医師・看護師以外の事務職も、自主的に資格を取得しています。

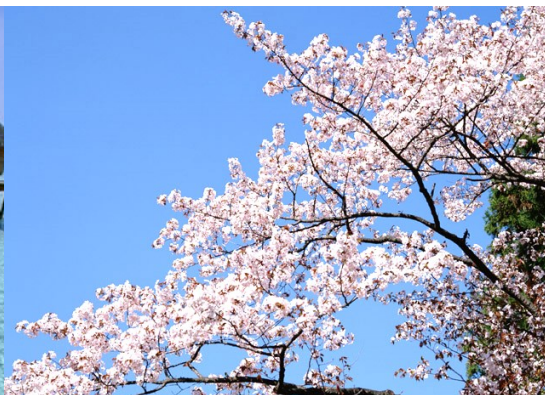
薬剤耐性対策の取り組み

薬剤耐性菌対策の観点から、抗菌薬の適正使用に努めます。

疾病予防

何より大きな効果を生む対策は、医療が必要な人を減らすことです。

私たちは、環境の観点からも、疾病予防、健康になるまちづくりを推進して参ります。



人材への取り組み

健康経営

栃木県より「とちぎ健康経営事業所」の認定を受け、健康づくり担当者を設置し、健康診断の実施、運動機会づくり、家庭と仕事の両立、病気の治療と仕事の両立、超過勤務時間管理、メンタルヘルス対策などを通じて、職員の健康づくりに積極的に取り組んでいます。

資質向上

研修委員会を設置し、院内研修の実施のほか、他医療機関・医師会・各種職能団体・企業等が主催する院外研修への参加機会を通年で設けています。

業務に関連する学会・研究会等の年会費・参加費等の補助も行っています。



働きがい

- 個別キャリア面談
- ジョブローテーション
- 任意選択型研修
- 各種委員会活動

働きやすさ

- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- 健康診断実施率100%
- 出産・育児休暇
- 保育補助制度・住宅補助制度
- 働きやすさの改善に向けた取り組み

委員会活動

- 感染対策委員会: 指針、研修等
- 安全管理委員会: 指針、研修
インシデント・アクシデント報告
- 院内美化委員会: 医療機器の安全使用
保守点検、清潔維持
- 広報委員会: 掲示物管理、HP、FB、LINE発信
たからぎ通信発行
- 社会的処方推進委員会: 社会資源活用
地域ネットワーク構築等
- CS・ES委員会: 顧客満足度、従業員満足度
働きやすさの改善
- 研修委員会: 自主的な自己研鑽の支援



DXへの取り組み

Society 5.0時代の到来は、地域診断におけるビッグデータの活用、住むだけで健康で幸せになるスマートシティへの取り組みや、デジタル活用による新たな健康づくりと親和性が高い分野です。エネルギー、交通、教育などのステークホルダーと連携した共通プラットフォームを通じて、実現を目指します。

また、医療ICTの分野では、様々な便利なシステムやアプリが実用化されています。

医療現場における課題

- 待ち時間(問診、診察、検査、会計など)
- 情報共有・情報管理
- 感染リスク
- 健康の維持向上に向けた日常的アプローチ

課題解決に向けた取り組み

- インターネット予約
- WEB問診
- オンライン診療
- 医療・介護SNS(どこでも連絡帳)
- 地域医療連携ネットワーク(とちまるネット)
- 電子カルテ
- 医療画像管理システム(PACS)
- LINE、FB、ホームページ
- ウェブ会議
- スケジュール共有
- LINE WORKS
- E-learning
- アポイント管理システム
- 勤怠管理・シフト管理システム
- 健康アプリ
- レセプトデータ活用
- セキュリティ管理、ICT担当者



感染症対策

感染症対策委員会

感染症対策委員会を設置し、地域の基幹的な役割を果たす医療機関と連携して、院内および地域における感染防止対策を実施します。

講習会を定期的に行い、感染症の発生状況の報告も行ないます。院内の医療廃棄物管理、針刺し事故防止、針刺し事故対応なども行なっています。

発熱患者の受診に際しては、患者の動線を分けられる体制を敷いています。

抗菌薬の適正使用

「抗微生物薬適正使用の手引き」を参考にした普及啓発を行ないます。抗菌薬の使用状況の報告を実施しています。

オンライン診療

感染症対策の観点からも、オンライン診療が有効です。

外来対応医療機関

当院は、発熱等の症状がある方の診療・検査を行う医療機関です。

ワクチン接種

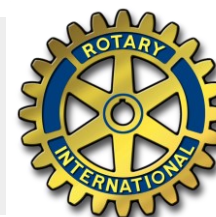
新型コロナウイルスワクチンのほか、成人のワクチン接種を行なっています。

- 新型コロナ
- インフルエンザ
- MR(麻疹・風疹)
- 肺炎球菌
- 帯状疱疹
- 破傷風トキソイド
- 子宮頸がん

ポリオ・プラス

私たちは、国際ロータリークラブの活動を通じて、GPEI(世界ポリオ根絶推進活動)のポリオ根絶活動、ならびに、マラリア、黄熱、エボラ出血熱などの感染症の監視と予防・治療、安全な水の提供などの活動を支援しています。

POLIO GLOBAL
ERADICATION
INITIATIVE



地域連携に向けた取り組み

地域連携推進室は、医療・介護の総合相談窓口です。

地域医療・地域貢献事業に取り組むための中核的な組織であり、外来診療、訪問診療、リハビリテーション、医療事務、講演・地域貢献活動など、クリニック内外のすべての活動を管轄しています。

病診連携・診診連携、医療・介護連携を推進するという重要な役割も担っています。

主な活動内容

- かかりつけ患者管理
- 訪問診療・訪問リハビリテーションの計画・調整
- 他医療機関への入院や手術・検査の連絡・調整
- 認知症高齢者や独居高齢者へのアウトリーチ
- 地域の解決困難事例の相談
- 介護保険等、各種制度の利用案内
- 権利擁護・成年後見制度
- 地域ケア会議への参加
- 健康教室・体操教室の企画/開催/サポート
- 『地域包括ケア研究会』主催

アウトリーチサービス

歩行困難や認知症のために外来受診できない人などを対象に、かかりつけ患者さまでなくても往診するサービスを行なっています。

- 往診、受診勧奨
- 介護保険主治医意見書作成
- 成年後見制度にかかる診断書・鑑定書作成

メンバー

- 半田ヒロ子(Ns.) 連携室長
- 小須田るみ(Ns.)
- 岩本啓子、間庭 昭雄(管理栄養士)
- 山崎崇(PT)
- 福田麻希子(ST)
- 曾我部翔斗(放射線技師)
- 荒川正子(臨床検査技師)
- 込山啓子、山田彰子、篠崎紗也加
- 村松朋子、小林瑞葉、石川智恵(医療事務)

地域連携推進室

外来診療

訪問診療

リハビリテーション

医療事務

医療・介護連携

地域貢献活動

主な連携先

- 他医療機関
- 介護保険施設
- 地域のケアマネジャー
- 地域包括支援センター(高齢福祉課)
- 共生型相談窓口 エールU
- いちごハートネット事業
- 宇都宮市つながりサポート女性支援事業
- 自治会・連合自治会
(みんなでまちづくり課)
- 民生委員・児童委員(生活福祉第1課)
- 福祉協力員(社会福祉協議会)
- 生活支援コーディネーター(高齢福祉課)
- 行政
- 地区担当保健師(保健福祉総務課)
- 食生活改善推進員・健康づくり推進員
(保健所健康増進課)
- 社会福祉協議会
- 学校(教育委員会)
- 魅力ある学校づくり地域協議会
(小・中学校、地域自治会)
- その他の社会資源(NPO、団体、個人)



かかりつけ医機能

身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合医

特色

プライマリ・ケア

「身近にあって、何でも相談にのってくれる総合的な医療」です。介護保険をはじめ各種制度の利用、認知症対応、医療・介護連携、ワクチン接種などを行ないます。

オンライン診療

「オンライン診療の適切な実施に関する指針」に沿ってオンライン診療を実施しています。訪問診療にもオンライン診療を併用できます。管理栄養士によるオンライン栄養指導にも対応しています。

リハビリテーション

医師、看護師、国家資格を持つセラピスト（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、管理栄養士が関わり、生活期の機能障害の改善、日常生活の自立、QOLの改善を目指します。

整形外科

運動器疾患
外傷
骨粗鬆症
関節リウマチ

内科

一般内科
生活習慣病治療
ワクチン接種
禁煙指導
健康診査
認知症診療
介護保険主治医意見書

ペインクリニック

痛みの内服治療
神経ブロック治療
特殊な痛み治療

地域連携推進室

地域医療・地域貢献事業に取り組むための中核的な組織です。外来診療、訪問診療、リハビリテーション、医療事務、講演・地域貢献活動など、クリニック内外のすべての活動を管轄しています。

かかりつけ登録制度

厚生労働省では「かかりつけ医」の普及を推進しています。私たちは、かかりつけ登録制度を設けて、総合的な医療を提供しています。

- ① 日常的な医学管理と重症化予防
- ② 専門医療機関との連携
- ③ 在宅療養支援・介護との連携
- ④ 社会的処方



認知症サポート医

「認知症サポート医」として、認知症の早期から地域の中で必要な医療や介護に繋がることができるよう、案内役やパイプ役を担っています。

また、「かかりつけ医」への助言、専門医療機関や地域包括支援センター等の関係機関や他職種との連携・協力体制の整備などを行なっています。

もの忘れや認知症の「相談」などができる医師として、栃木県から「とちぎオレンジドクター」に認定されています。



特色

ペインクリニック

痛みの専門外来

急性・慢性の痛みをテーマに、原因疾患が完全に治せない場合でも、痛みの軽減、日常生活動作の改善、生活の質の向上を目指します。

内服治療の工夫のほか、神経ブロック治療、リハビリテーションなどを組み合わせます。



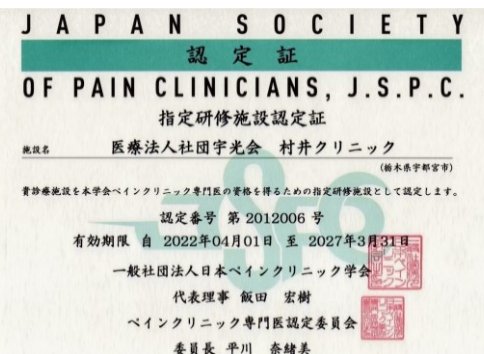
痛みの集学的治療

慢性痛の治療には、リハビリテーションとの連携が重要です。内服治療、神経ブロック治療と併用、または神経ブロックから移行する形でリハビリテーションを行い、その過程で、心理・社会的アプローチも加えた「集学的治療」を重視しています。痛み行動を減らし、日常生活の幅を回復し、身体活動を増やしてゆくところまでのお手伝いをしています。

日本ペインクリニック学会
ペインクリニック専門医



日本ペインクリニック学会
指定研修施設



ペインクリニックにおける社会的処方への取り組み

クリニックの強みである地域連携、社会的処方への取り組みを通じて、地域のフォーマル・インフォーマルな社会資源のネットワークを活用し、慢性疼痛の改善とwell-beingの向上をトータルに支援します。

連携例

地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護事業所等
NPO法人みんなの保健室、宇都宮市つながりサポート女性支援事業
NPO法人キーデザイン、NPO法人ぱんだのしっぽ等

在宅医療

住み慣れた場所で、人生の最期まで、自分らしく過ごす。
これを実現するのが在宅医療です。

特色 ペインクリニック専門医・麻酔科専門医の在宅医療
医療・介護との連携、地域の社会資源の活用

在宅療養支援診療所

地域において在宅医療を支える24時間の窓口として、他の医療機関と連携を図りつつ、24時間往診、訪問看護等を提供する保険医療機関です。

在宅緩和ケア充実診療所

一定以上の研修と臨床実績の要件を満たす在宅療養支援診療所です。
地域における緩和ケアの専門医療機関です。

在宅褥瘡管理者

日本褥瘡学会が認定する、一定の研修と臨床経験の要件を満たす在宅医です。
私たちは、褥瘡の予防と治療にも力を入れています。
在宅訪問管理栄養士、言語聴覚士の食支援チームと連携し、
栄養ケアも並行して行います。

丁寧な意思決定支援

「人生会議」ACP: Advance Care Planningとは、自らが大切にしていることや望むこと、医療やケアの選好について考え、信頼する人たちと話し合っておくことを言います。
私たちは、意思決定に困難を抱える方でも、その人の意思と尊厳が保たれるように、人生の物語・その人らしさを理解し、ご本人・ご家族に寄り添いながら丁寧に意思決定を支援しています。



在宅*医療
MOTTO ZAITAKU IRYO

ききょうの花プロジェクト
代表 大竹伸子さま作成



粕田晴之/編著 高橋昭彦/
編著 村井邦彦/編著 泉学
/編著 益子郁子/編著



リハビリテーション

スタッフ

- 理学療法士 8名
- 作業療法士 4名
- 言語聴覚士 1名
- 運動器セラピスト 2名
- 助手 4名
- 送迎スタッフ 4名



外来 通所 訪問

医療保険事業

- 運動器リハビリテーション
- 脳血管リハビリテーション

介護保険事業

- 通所リハビリテーション
- 訪問リハビリテーション



特色 インソール作成

足の痛みのスペシャリストです。

歩行時・運動時の動作分析を療法士が行い、足部のアーチ構造を支えるインソールを作成しています。

インソールを使用することにより、足部の内外側への崩れ（動作の不安定さ）や重心移動の振れ幅を修正することができ、膝や足部の痛みの軽減が期待できます。

適応：扁平足、足底筋膜炎、外反母趾、アキレス腱炎、シンスプリント、靭帯損傷、変形性膝関節症、前十字靭帯損傷、内側側副靭帯損傷、半月板損傷、鶏眼（うおのめ）、胼胝（たこ）など

特色 栄養ケアとの連携

より効果的なリハビリテーションをお手伝いします。

管理栄養士が栄養面のスクリーニング評価を行っています。必要な方には、食事内容や簡便な調理方法について個別にお手伝いしています。

特色 健康増進施設との連携

当院は、「栃木県健康倶楽部」の提携医療機関です。運動型健康増進施設（指定運動療法施設）のため、倶楽部会員でなくても医療費控除が受けられます。

14 高血圧症、脂質異常症、糖尿病、虚血性心疾患、その他の疾患があり、運動療法が適当であると認めた方を対象に、「運動療法処方箋」を発行いたします。

認定栄養ケア・ステーションうつのみや

日本栄養士会より認定を受けた、栄養ケアを提供する管理栄養士・栄養士のいる地域密着型の拠点です。



在宅栄養専門管理栄養士

認定試験

在宅栄養専門研修

講義・演習・実習

在宅療養者の栄養管理経験 5年以上
症例提出 5例
学会発表 1回以上
(論文発表 1編以上)

日本栄養士会
日本在宅栄養管理学会
共同認定

在宅訪問管理栄養士

認定試験(筆記試験・実践事例)
eラーニングを含む研修(40時間)
病院・診療所・高齢者施設等の実務経験5年以上(従事日数900日以上)

管理栄養士

特色 食支援チーム

在宅訪問管理栄養士と言語聴覚士が「食支援チーム」として主に在宅医療の現場で活動しています。
「最期まで口から食べる」支援を通じて、人生の最期まで尊厳と喜びを保つお手伝いをしています。

特色 在宅訪問管理栄養士

公益社団法人日本栄養士会と一般社団法人日本在宅栄養管理学会が共同で認定する管理栄養士資格です。複雑で解決困難な栄養の問題を有する重症疾患等の在宅療養者や集団に対して、個々の生活状況を踏まえた在宅栄養管理を通じてQOLの支援を行ないます。また、在宅栄養管理にかかわる地域の多職種と協働するための栄養管理システムを構築し、継続的に協働しています。

特色 言語聴覚士

ことばによるコミュニケーションに問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援する専門職です。脳卒中後の失語症、聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害発現メカニズムを明らかにし、検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行います。

活動は医師・歯科医師・看護師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・ケースワーカー・介護福祉士・介護支援専門員・教師・心理専門職などと連携し、チームの一員として行います。



地域貢献活動

私たちは、地域共生社会の一員として、地域の各ステークホルダーと連携して社会貢献活動を推進してまいります。

主な地域活動

- インフォーマル体操教室
プロボノ療法士がプロデュース
- ホームヘルスケアタウンうつのみや
ケアマネジャー中心の勉強会
- まちなかメディカルカフェ in 宇都宮
がん患者のピアサポートと語らいの場
- リレー・フォー・ライフとちぎ
がんサバイバー・ケアギバーをたたえる
24時間ウォークイベント
- 在宅緩和ケアとちぎ
地域の多職種ネットワーク
- 在宅ケアネットワーク栃木
地域の多職種ネットワーク
- 子ども塾★わいわい食堂
3法人で運営することも食堂
- とちぎ栄養ケアネットワーク
地域で活躍する栄養士・管理栄養士の
ネットワーク
- 栃木栄養ケア・ステーション協議会
栄養ケア・ステーションの連携の場
- 宇都宮まちづくり推進機構
- みんなの保健室 戸祭

連携施設

- 健康増進施設 栃木県健康倶楽部
- サービス付き高齢者向け住宅(協力医療機関)
株式会社らいとケア とちのき鶴田
大東建託パートナーズ株式会社 エルダーガーデン築瀬
株式会社学研ココファン ココファン元今泉
株式会社やさしい手 やさしい手シニアリビングやさしえ駒生
- 有料老人ホーム
社会医療法人 中山会介護付き有料老人ホーム宝木荘
- ケアハウス 社会福祉法人百寿会 ジョイナス長岡
- 障がい者デイサービス
株式会社在宅支援ネットワーク 生活介護はなみずき
- 障がい者グループホーム
株式会社MARRY 障害者グループホームEME
一般社団法人えんがお 共同生活援助事業所 えんがお
大東建託パートナーズ株式会社 パートナーガーデン江曽島 厩番館
大東建託パートナーズ株式会社 パートナーガーデン宇都宮
株式会社ラシエル グループホームRACIEL宇都宮
- 児童発達支援・放課後等デイサービス事業所
オリオンホールディングス株式会社 星空キッズジム宇都宮
一般社団法人かずあるかたち かずあるかたち戸祭
- 就労支援事業所
株式会社ふきのとう 就労支援あんと(B型)
アシストン株式会社 FLATワークス(B型)
- 特別養護老人ホーム
社会福祉法人友あんど愛 地域密着型特別養護老人ホームチエルシー

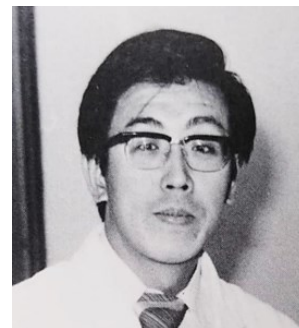


連携団体

- 認定NPO法人うりずん
- 認定NPO法人栃木ボランティアネットワーク
- 認定NPO法人チャレンジド・コミュニティ
- NPO法人キーデザイン
- NPO法人みんなの保健室
- NPO法人ぱんだのしっぽ
- 一般社団法人えんがお
- 子どもSUNSUNプロジェクト
- 宝木地区子どものみらい応援隊
- とちぎ子ども食堂ひろば
- 宇都宮市つながりサポート女性支援事業
- いちごハートネット事業
- 公益社団法人日本ローイング協会
- 宇都宮ブリッツェン

クリニックのあゆみ

昭和53年(1978)	「村井整形外科」開院 19床の有床診療所
平成元年(1989)	法人化「医療法人社団 宇光会 村井整形外科」
平成11年(1999)	病床廃止 無床診療所となる
平成18年(2006)	ペインクリニック診療開始
平成22年(2010)	在宅医療開始 在宅療養支援診療所となる
平成23年(2011)	院長交代
	日本ペインクリニック学会指定研修施設となる
平成24年(2012)	介護保険事業開始 通所リハビリテーション開設
平成24年(2012)	機能強化型在宅療養支援診療所に認定される
平成25年(2013)	「村井クリニック」に名称変更
平成27年(2015)	地域連携推進室を開設
平成27年(2015)	訪問リハビリテーションを開始
平成28年(2016)	在宅緩和ケア充実診療所に認定される
平成28年(2016)	もの忘れ・内科診療を開始
平成28年(2016)	地域食支援チーム発足
平成30年(2018)	初代逝去
令和元年(2019)	認定栄養ケア・ステーションとなる
令和元年(2019)	子ども食堂を共同で開始



1975年頃開業前自治医大で



1978年開院記念祝賀会



1991年



2008年30周年
記念祝賀会



2011年クリニックにて



1998年20周年
記念祝賀会



2019年クリニックにて



MURAI CLINIC

医療法人概要

ロゴマーク（2014年作成）

3本の宝の木が、寄り添い支え合いながら地域に根ざしている様子をあらわしています。「3つの実」：真実・誠実・堅実

名称 医療法人社団 宇光会 村井クリニック

所在地 栃木県宇都宮市宝木町1丁目2589番地

設立 昭和53年（1978年）8月20日

従業員数 49名

年間外来患者数 36,000名

年間訪問診療患者数 260名

年間訪問回数

年間神経ブロック回数 1,200回

年間リハビリ回数

年間通所リハビリ回数 720回

年間訪問リハビリ回数 660回

（2023年4月現在）



Access 宇都宮北道路より車で5分
警察学校前バス停すぐ



宝木地区のシンボルマーク

「宝木」の地名の由来

当地を開拓した集落の人々が、当時珍重されていた中国原産の「児の手柏」を「宝の木」と名付けて大切な管理したことに由来するとされています。

認定

■施設

日本ペインクリニック学会指定研修施設

機能強化型在宅療養支援診療所

在宅緩和ケア充実診療所

認定栄養ケア・ステーション

とちぎ禁煙推進店

健康長寿とちぎづくり推進県民会議会員

■開設者

日本専門医機構麻酔科専門医

日本麻酔科学会麻酔科指導医

日本ペインクリニック学会専門医

日本褥瘡学会在宅褥瘡管理者

日医かかりつけ医

栃木県医師会認定かかりつけ医

認知症サポート医

栃木県もの忘れ・認知症相談医

（とちぎオレンジドクター）

難病指定医

身体障害者福祉法第15条指定医

（肢体不自由）

臨床研修指導医

日本スポーツ協会公認スポーツドクター

日本医師会認定健康スポーツ医

患者の意向を尊重した意思決定のための

研修会 指導者

オンライン診療を実施する医師

寄り添う医療 笑顔のサポート



MURAI CLINIC

Clinic Guide 2023